令和４年度事業の実績報告

1. 都市の散乱ごみ、屋外拠点回収など

海洋ごみ・市街地散乱ごみ削減プロジェクト業務

市街地散乱ごみ削減プロジェクト実証試験業務

○（目的）

ごみ排出・ごみ拾い行動に付随するストレスを低減して散乱ごみの少ない地域づくりを進めるためには、陸域のごみが河川・海洋へ流出しやすいような場所が不明で効果的な対策が難しい、広範囲で市街地の路面から雨で流れ出す（ノンポイント-ポリューション）地域の問題に向き合う必要がある。

そこで、道路排水のための雨水管や集水枡、排水形態など、プラごみの流出のしやすさ指標を地図上にまとめ、市民に見える化し、流出を効率的に防止できる清掃活動を喚起できることを目的とした「プラごみポテンシャルマップ（以下、GISマップアプリ）」の作成や、瀬戸内オーシャンズＸ推進協議会が呼びかける清掃実践活動の場で、試用の位置付けでGISマップアプリを活用し、シビックテック（市民がテクノロジーを活用して、地域や行政が抱える課題を解決しようとする取り組み）の視点で技術側面から貢献する。

○（実施箇所）広島県

○（実施結果）

広島県呉市の一部をフィールドとしてプラごみの流出のしやすさを指標として情報整理し、ポテンシャルマップを作成、これを用いて持続可能性を考慮したGISマップアプリを検討し、既存アプリを使用して試験運用を実施。

1. 水門シビックテック

水門位置情報の公開イベント型調査（岡山県地域課題対応）実施業務

地域から海ごみ問題に対処するための町内会等自治組織の関心動向の把握整理業務

○（目的）

岡山県においては、瀬戸内海の包括的な海洋ごみ対策を進めていくにあたり、地域固有の課題である用水路へのポイ捨て問題に対応していく必要があるが、水門位置情報は、長年の水田干拓の歴史の中で、確実な引継ぎがされていない。多くの市民の力を借りて、グーグルストリートビューなどのインフラ情報を用いて水門の分布を把握するとともに、用水路に関する市民の関心を高めるイベントを開催。また、一般に外向けの情報発信があまり行われない町内会・連合町内会の環境活動への関心動向について、笹ケ瀬川沿川を基本として把握、とりまとめる。

○（実施箇所）岡山県

○（実施結果）

環境に関心のある団体・個人のオフライン５チーム16名、オンライン５チーム13名で計222個の水門を発見、用水路問題へ取り組む人たちで意見交換。

1. 航空写真解析

　航空写真画像AI分析技術を用いた愛媛県佐田岬以南の海岸漂着ごみ実態調査業務

○（目的）

瀬戸内海の西部、愛媛県西岸(741km)は長く入組んだリアス海岸、立ち入りが困難で調査に大きな費用がかかるため、これまで自治体の漂着ごみ調査と回収が進捗せず、課題となっていた。そこで、国土地理院が撮影した既存の航空写真画像をベースとして・AI分析技術を活用して、線的・面的な海岸漂着ごみ実態把握を行い、漂着ごみの懸案箇所を抽出する。

○（実施箇所）愛媛県

○（実施結果）

愛媛県佐田岬以南の総延長741kmの海岸における航空写真画像を分析。令和３年度業務で実施した衛星画像分析や現地目視調査等の手法と精度等を整理。

1. 大型海底ごみ現地実態調査業務

○（目的）

外国船航路や検疫錨地周辺に投棄され、底曳網操業および操業における海底ごみ回収活動の支障となっている大型海底ごみについて、その引き上げ回収の可能性を見極める。

○（実施箇所）岡山県

○（実施結果）

３つの漁協から操業に影響の大きい支障物の場所を聞き取り整理（延べ23か所）。うち４か所について、サイドスキャンや潜水調査で支障物の調査を実施し、３つのコンクリート構造物を確認。

1. 自治体回収調査

瀬戸内４県のボランティア回収ごみ自治体回収実態調査および岡山県用水路・水門箇所把握に向けた関係技術会合の開催業務

○（目的）

瀬戸内４県の瀬戸内海に連なる河川流域に属する市町村におけるボランティア清掃活動等によって集められたごみの回収処理方法について調査し、とりまとめて整理を行う。また、行政で公表可能な情報をベースに、スマホによるシビックテックを活用して市民とともに地域の用水路と水門のデジタル地図化を進め、問題解決に向けて地域で利用される基盤情報を作成するため、基礎情報集約と意見交換を行う関係技術会合を開催する。

○（実施箇所）４県

○（実施結果）

瀬戸内４県の岡山県（27 市町村）、広島県（23 市町）、香川県（17 市町）、愛媛県（17 市町）の全ての市町村の① 市町村の担当窓口の連絡先② 引き受け回収処理の流れ③ 引き受けてもらえる判断基準をアンケート調査により取りまとめた。

岡山県用水路・水門箇所把握に向けた関係技術会合を開催。

1. 空間情報処理等

協議会事務局運営に係る空間情報処理および岡山県地域課題に対応する水門シビックテック運営に関する技術支援等業務

○（目的）

瀬戸内地域の河川ごみ散乱の実態データ、自治体・市民団体による河川ごみ清掃活動の所在や回収量などの活動実績等に基づき、人的・財政的リソースを効果的に配分した散乱ごみ対策を考えるためにWeb-GIS（地理情報システム）に必要となる情報を統合する。協議会事務局の政策形成業務に必要となるGISデータの整理・分析および、地域合意形成に要する基礎資料作成ならびに、岡山県地域課題に対応する水門シビックテック運営に関する技術支援等を行う。併せて、瀬戸内海の海洋ごみ収支（2010年調査）のうち、回収量（1,400ｔ／年）について現時点データを基に時点修正を行う。

○（実施箇所）４県

○（実施結果）

エビデンスベースの活動根拠となる諸情報を集約し公開している「瀬戸内オーシャンズX　データプラットフォーム」に、４県での清掃活動等の成果情報を統合する機能など、データを付加反映できる体制を整え、これを双方向の情報集約プラットフォーム（「地域清掃ポータル」）として構築。「岡山水門シビックテック」で取得された水門の所在データ及び2023年2月に行われた「岡山水門デジタル地図作成チャレンジイベント」で取得された水門所在データを水門シビックテックの実施運営に係る基盤情報の水門所在データに統合し、公開用のWeb-GISへ統合可能な状態とした。

瀬戸内海の海洋ごみ収支（2010年調査）のうち、回収量（1,400t/年）について、現段階で得られるデータを元にした時点修正を実施。

1. 漁業者交流会

漁業に携わる市民が考える海と食卓と流通の関係再考座談会開催業務

瀬戸内４県海ごみ問題底曳網漁業者勉強会映像撮影業務

○（目的）

瀬戸内４県の中でも都市と漁場・市場が近接する香川県を拠点として、地域の漁業や流通業などに携わる市民の目線に立ち、日常の生業の中で気付く海洋ごみ問題の課題を浮き彫りにし、既存の社会経済活動の枠を超えた対話の中から前例にとらわれない抜本的な解決策を見出すため、現役・若手の漁業を生業とする市民が集い意見を交わす座談会を開催する。

○（実施箇所）主に香川県

○（実施結果）

日常操業で実感する海ごみ問題について漁業者同士で意見交換会の実施。流通業者、大学生で魚食文化を守るための課題について意見交換。消費者の立場から海底ごみの回収を行う漁業者の活動を体験。また、瀬戸内海の中央部である、燧灘で、４県の漁業者を集めて海ごみ問題への課題や取り組みを共有。

1. 摺鉢谷川・高松漁港エリア

　地域モデル事業（摺鉢谷川・高松漁港エリア）における会議運営等業務

地域モデル事業（摺鉢谷川・高松漁港）におけるイベント運営業務

○（目的）

地域の特徴を捉えて、地域状況に応じた海洋プラスチック問題解決に向けた活動を実施し、課題や成果を蓄積、同様の特徴を持った地域へ横展開を図る。

○（実施箇所）香川県

○（実施結果）

地域住民との対話・清掃活動を通して、継続的な清掃活動の実施に向けて課題の洗い出し・意識醸成。清掃活動は約130名で416kgの回収。

1. アクセス困難エリアのごみ回収

リアス式海岸漂着ごみ回収効率計測作業事前調査委託業務

アクセス困難な海岸（愛媛県宇和島市）での地元漁協と連携した漂着ごみ回収活動の展開支援業務

過疎地漁村集落（愛媛県宇和島市）での地元漁業者が主体となった大規模漂着ごみ回収活動を効率的に進めていく上で不可欠となる自治会・市民団体が主体となった後方サポート体制の構築およびサポート活動実践のための地元支援業務

過疎地漁村集落（愛媛県宇和島市）での地元漁業者が主体となった大規模漂着ごみ回収活動を支援する発泡スチロールフロート減容機の手配配備業務

接近困難海岸の漂着ごみ回収実証モデルでの漁村集落連携形態把握のための活動実践業務

○（目的）

離島やリアス式海岸等、アクセス困難なエリアのごみ回収にあたり、回収したごみを減容させて運搬の効率を上げる対応、産廃を含むごみ回収スキームを確立し、ボランティア活動マニュアルの作成等を行う。

○（実施箇所）広島県（阿多田島）、愛媛県（宇和島）

○（実施結果）

各種事前調査・調整、機材手配など。実証実験は、減容機・破砕機を活用し、宇和島で約100名、約1.2ｔの回収。阿多田島では日本財団主導で減容機に加え、上陸用舟艇等も活用して約300名、約1.2ｔの回収。

1. ４県連携イベント

瀬戸内オーシャンズX主催 4県連携清掃イベント設営および全体管理実施業務

○（目的）

4県が連携し、広域的かつ発展的な取り組みを行うと共に、柱4の「政策形成」に繋げていくため、4県合同の清掃活動に各県が主体性を持ち取り組むことで、プロジェクトチーム内の結束力を高めるとともに、複数地域を横断する柱２、3の事業推進に必要となる多様なステークホルダーとネットワークを作る。

○（実施箇所）４県

○（実施結果）

海ごみの発生源が街にあることを実感・自分事化するために、 街の中心でもあるお城を起点に清掃イベントを中継で４県を結んで同時開催。４県合計で約300名、約100kgのごみを回収。

1. メディア啓発

　瀬戸内オーシャンズX共通クリエイティブ制作および推進協議会発信体強化業務

○（目的）

瀬戸内オーシャンズＸプロジェクトの事業推進のため、共通動画の作成や、瀬戸内オーシャンズＸのウェブサイトをブラッシュアップするとともに、年度内の情報更新等のメンテナンスを行う。

○（実施箇所）４県

○（実施結果）

瀬戸内オーシャンズXのホームページの維持管理、動画作成。

**【日本財団と連携した活動】**

1. アクセス困難エリアのごみ回収

　アクセス困難な離島海岸の漂着ごみ回収スキームの連携実践展開業務

○（目的）

広島湾内の離島、阿多田島（広島県大竹市）において、人の立ち入りや回収物の搬出が難しい海岸の漂着ごみを効率的に回収・処理することを目的とした実証事業を実施する。得られたデータをもとに、瀬戸内海に点在する離島など接近困難箇所での清掃活動のモデル構築を進める。

○（実施箇所）広島県

○（実施結果）11月17日に実施。上陸用舟艇、特殊車両、プラスチック減容機などを活用し、地元漁協、海上災害防止センター、地元自治体、減容装置メーカーなどの関係者約300名で、大型プラスチックごみなど計約1.2トンを回収した。